富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議

平成２６年度第１回中小企業支援専門部会（要旨）

日　時　　平成２７年１月１５日（木）１５：３０～１７：００

場　所　　農協会館８０１会議室

議　事　　(1) 県中小企業振興基本条例に新たに盛り込む内容（案）について

(2) 県ものづくり産業未来戦略雇用創造プロジェクト平成２６年度の取り組み状況について

(3) 平成２５年度 県中小企業振興施策の実施状況について

委員からの主な意見

【人材確保について】

・　小規模企業は起業間もない企業が多く、大都市圏から人を引っ張ってくることが困難。ＵＩＪターン支援策が充実していていいが、もう少し使い勝手を良くしていただきたい。また、処遇改善にも力を入れてほしい。

・　当業界は、３Ｋ産業なので後継者がおらず、技術革新もない。支援をお願いしたい。

・　人口が減少する中では、女性・高齢者が活躍することが重要なので、女性・高齢者の技術人材とのマッチングを考えてほしい。

・　企業の成長に伴い、中小企業でなくなることで、県の人材確保支援施策を活用できない場合がある。有能な人材をどう確保し、どう効果的に活用していくのかは大きな課題である。

・　市場価格と積算価格の乖離が縮小してきていることもあり、不調中止の件数は減少の傾向にある。各産業は若年労働力を奪い合っていることから、人材・担い手不足対策が難しい。今年度は、業界への人材確保のため、高校生向けＤＶＤ・リーフレットの作成、親子現場見学会を実施した。

【人材育成について】

・　企業からは、社員を研修に出すと機械が動かないと言われるほか、新しいことにチャレンジしたがらない若い世代が多くなったと感じている。県で環境を整えていただいてありがたいが、規模の小さい企業は２～３日を要する研修にはなかなか人が出しづらい。

・　人材育成施策に、勇気付け、動機付けの観点があってもいいのではないか。

・　県と連携し、人材育成の取組みとして、リーダー育成のため現場指導を実施している。取り組む会社も増えており、経営者側の意識（理解）が広まっていると感じている。

【融資の状況について】

・　県の制度融資メニューは幅広く拡充されており、我々と競合するが、中小企業にとっては結構なこと。新幹線開業間近だが、企業の設備投資に目立った伸びはない。しかし、創業前後の地域企業への融資は、１５％増でここ２～３年毎年右肩上がり。富山の女性の創業比率は全国より高く２割を占め、活躍が目立つので、女性財団との連携を強化したい。とやま起業未来塾修了生の融資申込みについては、計画がよく練られており、安心して融資できる。単一の機関だけで企業を支援するのは難しくなっており、連携して支援していくのが主流になりつつある。

・　去年までは、格付けが上がる企業より下がる企業が多かったが、最近は上がる企業が多い。また、融資残高は増えているが、事業者数は減少。県の支援施策を分かりやすくしてほしい。

・　資金需要が減少し、保証協会の利用者も減少した。保証協会利用者は主に小規模企業（利用者の８割、額の６割）である。

【技術連携について】

・　企業同士の連携で技術課題が解決することもあると思うので、金融とも連携して、技術のマッチングなども考えてほしい。

【助成制度について】

・　助成金については、使い勝手の問題がある。小規模企業同士の連携した取組みに支援できないか。

【県版プレミアム商品券について】

・　消費税率引上げと円安の影響か個人消費が増えていない。新幹線効果に期待するが、アウトレット、コストコなどができることに危機感もある。補助金を出しても金が回らないので、県でプレミアム商品券の検討をお願いしたい。

【企業・店舗の地域貢献について】

・　商工会青年部は、会社経営だけでなく、消防団や獅子舞、イベント、ＰＴＡ等さまざまな活動を地域で行っている。子どもや孫に、会社・店を継いでいかせられるような施策をお願いしたい。個人経営者から、県民の皆さんと連携し、なくてはならない会社・店として、地域に貢献したいとの声がある。

・　新しい仕事づくりや、地域を元気にというテーマで頑張っているので、相談に乗ってもらいたい。

【市町村との連携について】

・　１５市町村が元気にならなければ、各地で事業活動を行う中小企業は厳しい。（市町村条例の制定を含め、）市町村への支援をお願いしたい。

【地域の特性を活かした取組みについて】

・　大企業のコスト優位性を活かしたビジネスがうまくいかなくなり、差別化戦略に成功したところがうまくいっている。新幹線での来訪者は、全国規模のものでなく、地域のものを求めてくる。世界で最も美しい湾クラブを活かしたｂｉｋｅの取組みなど、地域の特性を活かした差別化を行うことで好ましい結果が得られるのでないか。

【各業界の状況について】

・　中小企業が忙しくなってきているのは間違いないが、仕事とともに外注費も増えて利益が上がらないという話もよく聞く。調査によれば、売上高１７箇月連続増（全国ベース）するも採算は悪化という結果。政府の施策に呼応して地域の活性化に貢献したい。

・　２０１３年の医薬品生産金額は、全国で１．２％の減少、県は０．１％増加した。薬業は全てが良いわけでなく、業態により格差が出ている。特に富山の配置薬が苦しい状況。医薬品は薬事法による規制のため、輸出もすぐにできるわけでなく、円安メリットは少ない。

・　消費税率引上げによる地金高騰の価格転嫁ができていない。

・　消費税増税の影響が思いのほか大きく、忙しいのに利益が上がらない。

・　以前より受発注の波が大きく、どう対応して利益を出していくかが難しい。中小企業の相談として多いのは、補助金、ビジネスプラン、販路開拓の順。伝統産業の海外への販路開拓支援を強化して行きたい。経営改善、地域資源活用をもっと応援したい。